

2008年1月21日

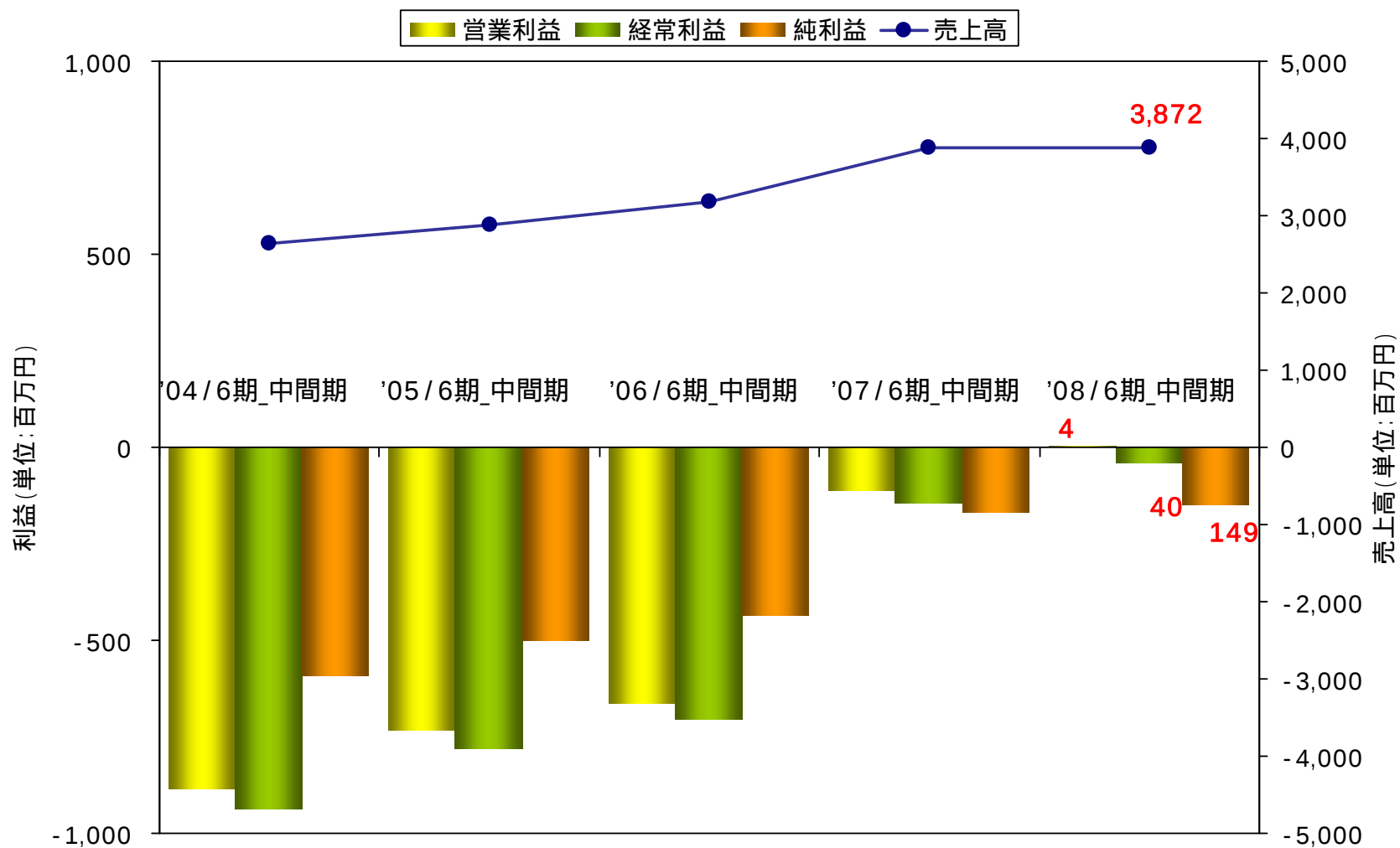
2 0 0 8 年 6 月 期 中間決算速報

株式会社 構造計画研究所

【本資料についての注意】

08/6期_中間期の数値は、監査法人による会計監査を受ける前の速報値であり、実際の決算数値は、本速報値と差異が生じる可能性がありますので、あらかじめお含み置きください。

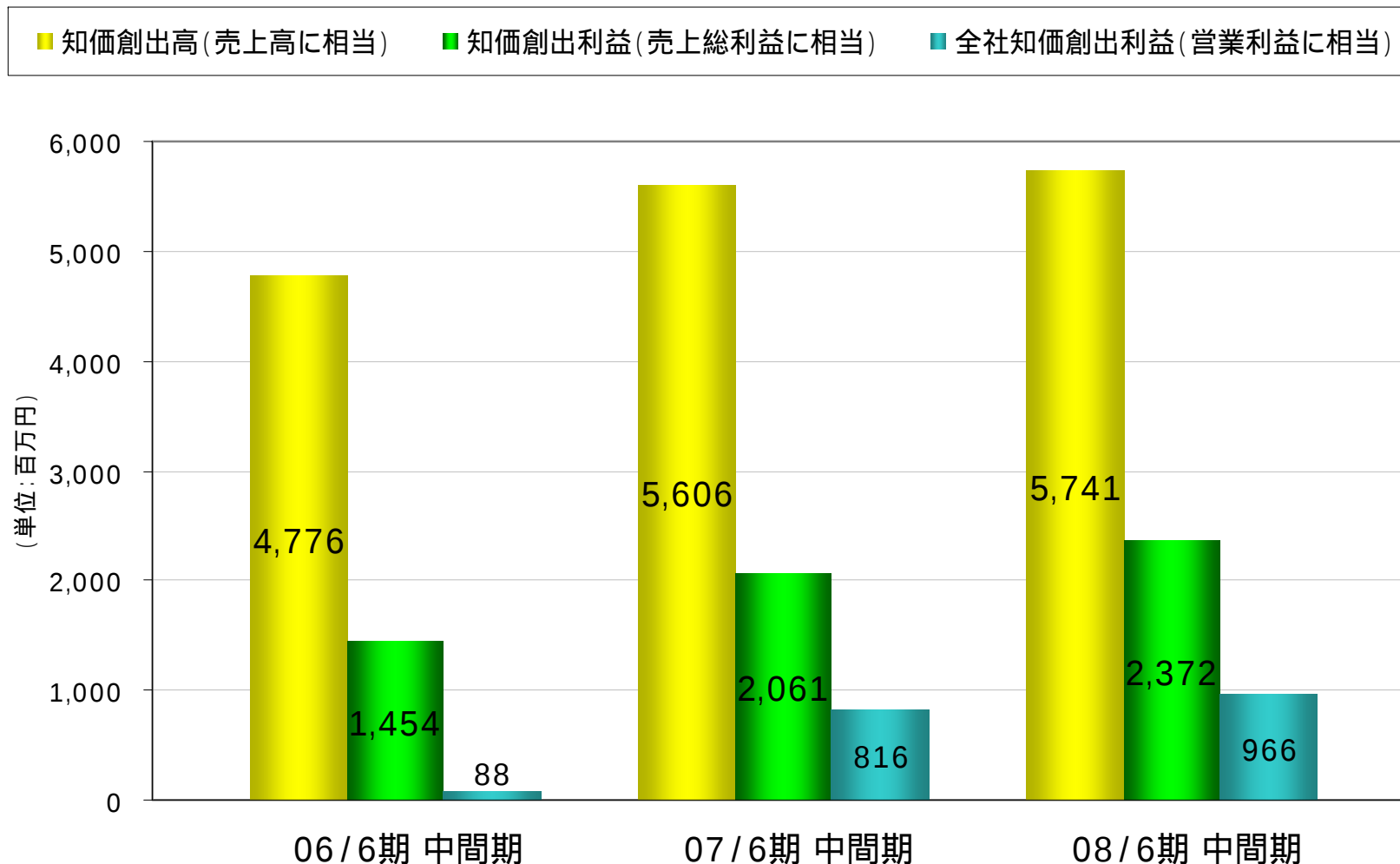
中間期の業績推移



08/6期_中間期の数値は、2008年1月21日現在の速報値であり、実際の決算数値と差異が生じる可能性がありますので、あらかじめお含み置きください。

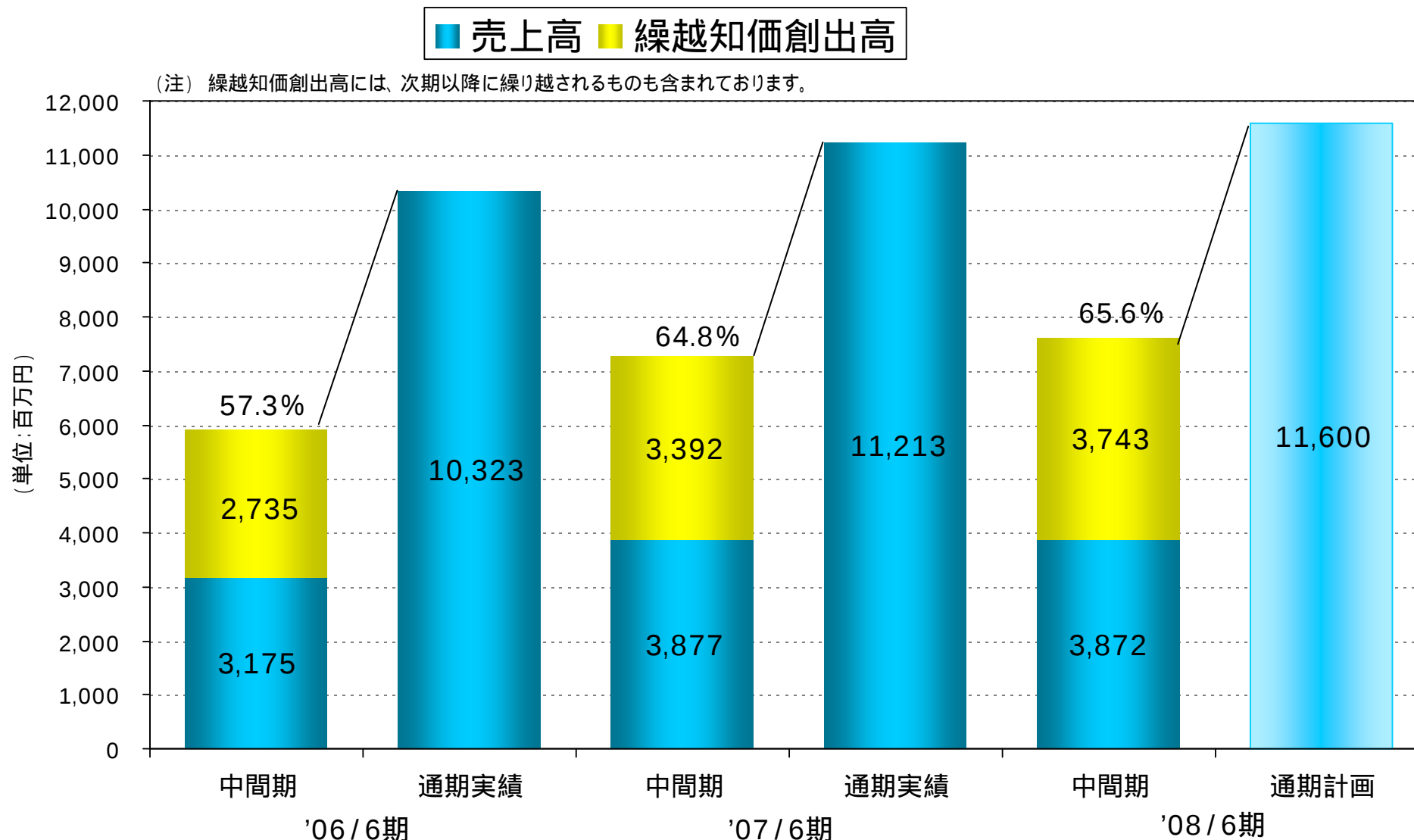
中間期における知価創出高と知価創出利益の比較

当社ではソフトウェアの開発など、受注から売上までの期間が長いプロジェクトがあるため、進捗度合いを金額換算した業績管理・予測・レビューのための内部指標である工事進行基準を開示しております。



08/6期_中間期の数値は、2008年1月21日現在の速報値であり、実際の決算数値と差異が生じる可能性がありますので、あらかじめお含み置きください。

通期売上高に対する中間期までの進捗状況



08/6期 中間期の数値は、2008年1月21日現在の速報値であり、実際の決算数値と差異が生じる可能性がありますので、あらかじめお含み置きください。

< 参考 > 当社独自のプロジェクト管理指標について

システム構築、コンサルティングサービスなど、受注から成果品を引渡し売上計上時まで数ヶ月を要すプロジェクトが事業の大半を占める当社は、業績値の季節変動が生じやすい業態といえます。

そこで当社では、プロジェクトが、どの程度進捗しているのかを金額換算した“**知価創出高**”及びその利益を示す“**知価創出利益**”と称する2つの内部経営指標により、プロジェクトの進捗過程での業績を定量化し、月次の業績管理、計画 / 実績トレースを実践しております。

“知価創出高” : 受注金額にプロジェクトの進捗度合いを掛け合わせたもの

“知価創出利益” : 上記よりプロジェクト経費を差し引いたもの(販管費を除く)

現時点における知価創出利益予測は、計画人件費を基に算出しておりますが、当社では当年度業績連動の賃金制度を導入しているため、年度末においては人件費が変動することにより利益が変動する可能性があることを予めご了承ください。

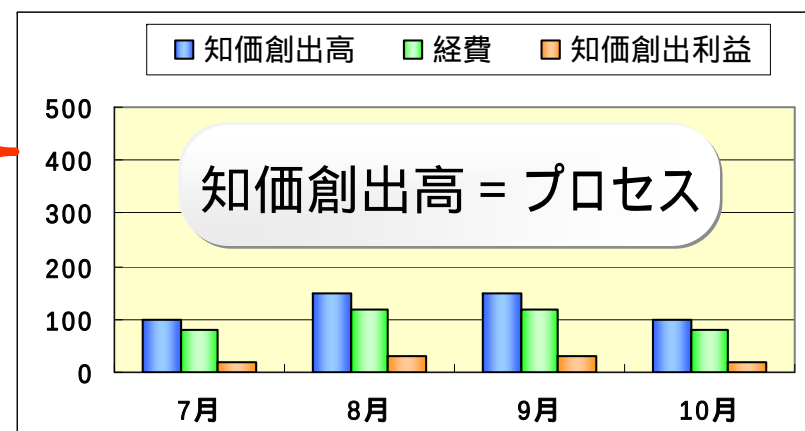
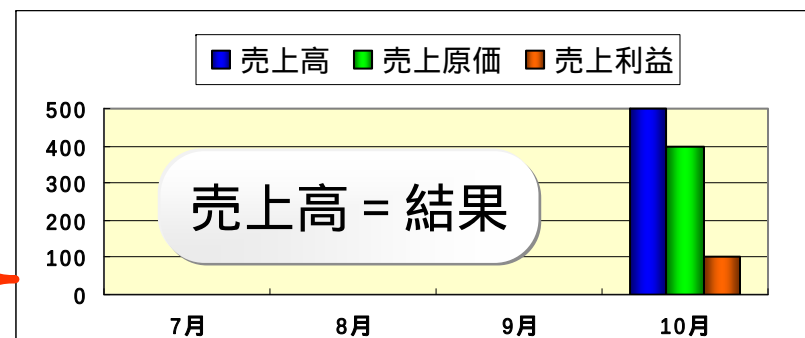
< 参考 > プロジェクトの業績管理についての例

7月に500万円のプロジェクトを受注、10月に納品、売上計上するケース

	7月	8月	9月	10月	合計
受注高	500				
売上高				500	500
売上原価				400	400
売上利益				100	100
知価創出高	100	150	150	100	500
経費	80	120	120	80	400
知価創出利益	20	30	30	20	100

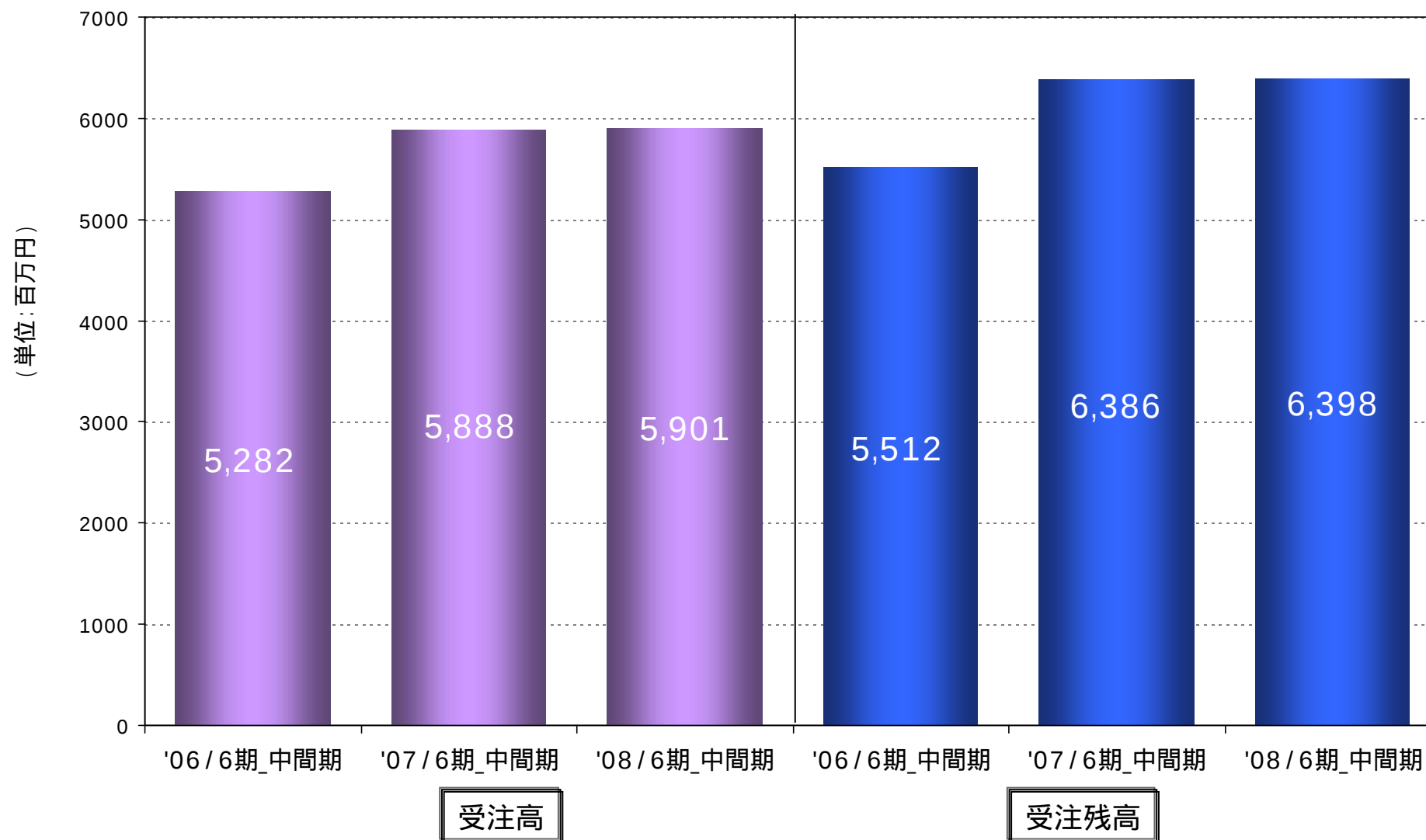
1 Q繰越知価創出高

1 Q繰越知価創出利益



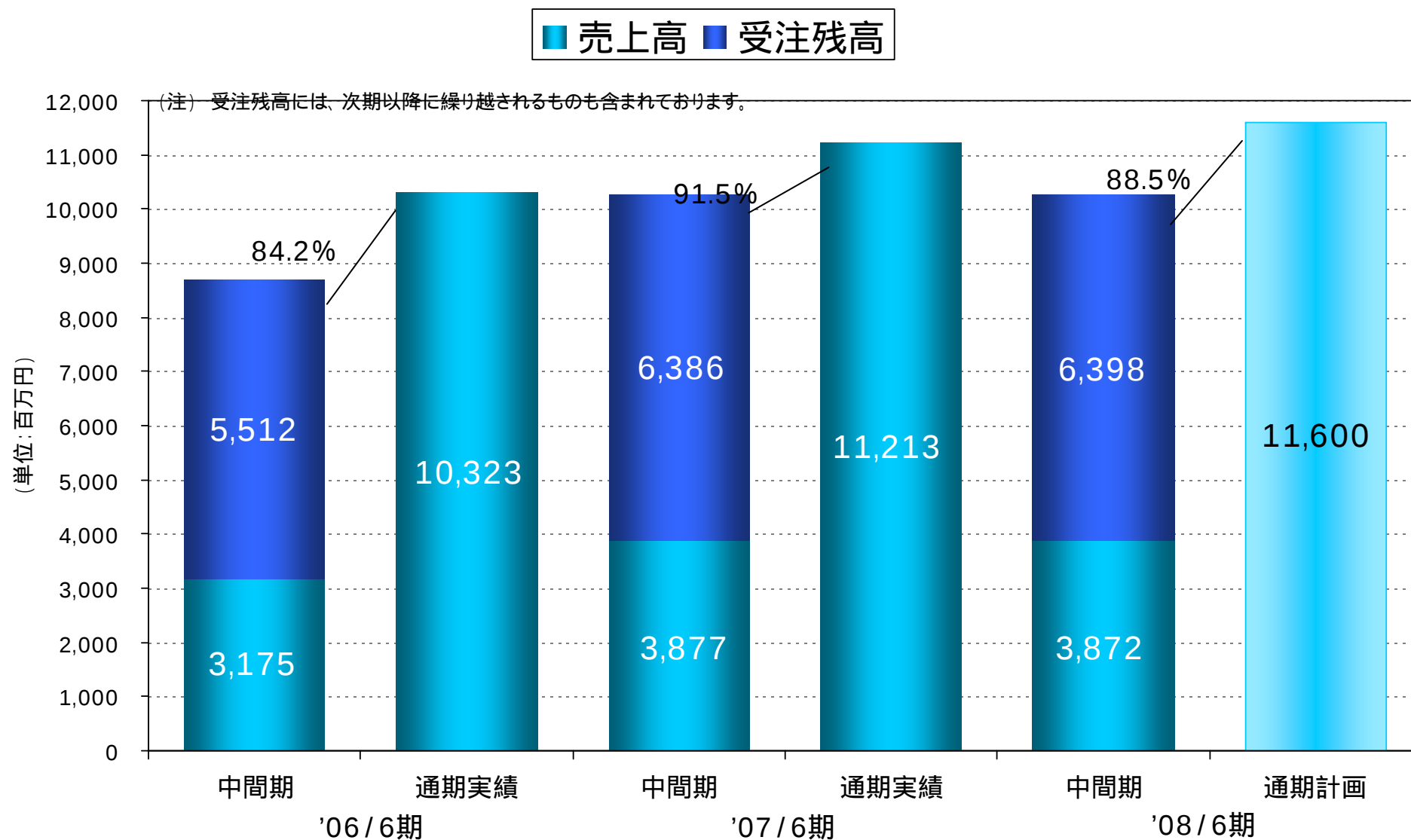
月次の知価創出高及び知価創出利益は、上図のようにプロセス管理しており、1 Qに売上計上されなかったプロジェクトの知価創出高及び知価創出利益は、次期繰越として管理しております。

中間期における受注高・受注残高の比較



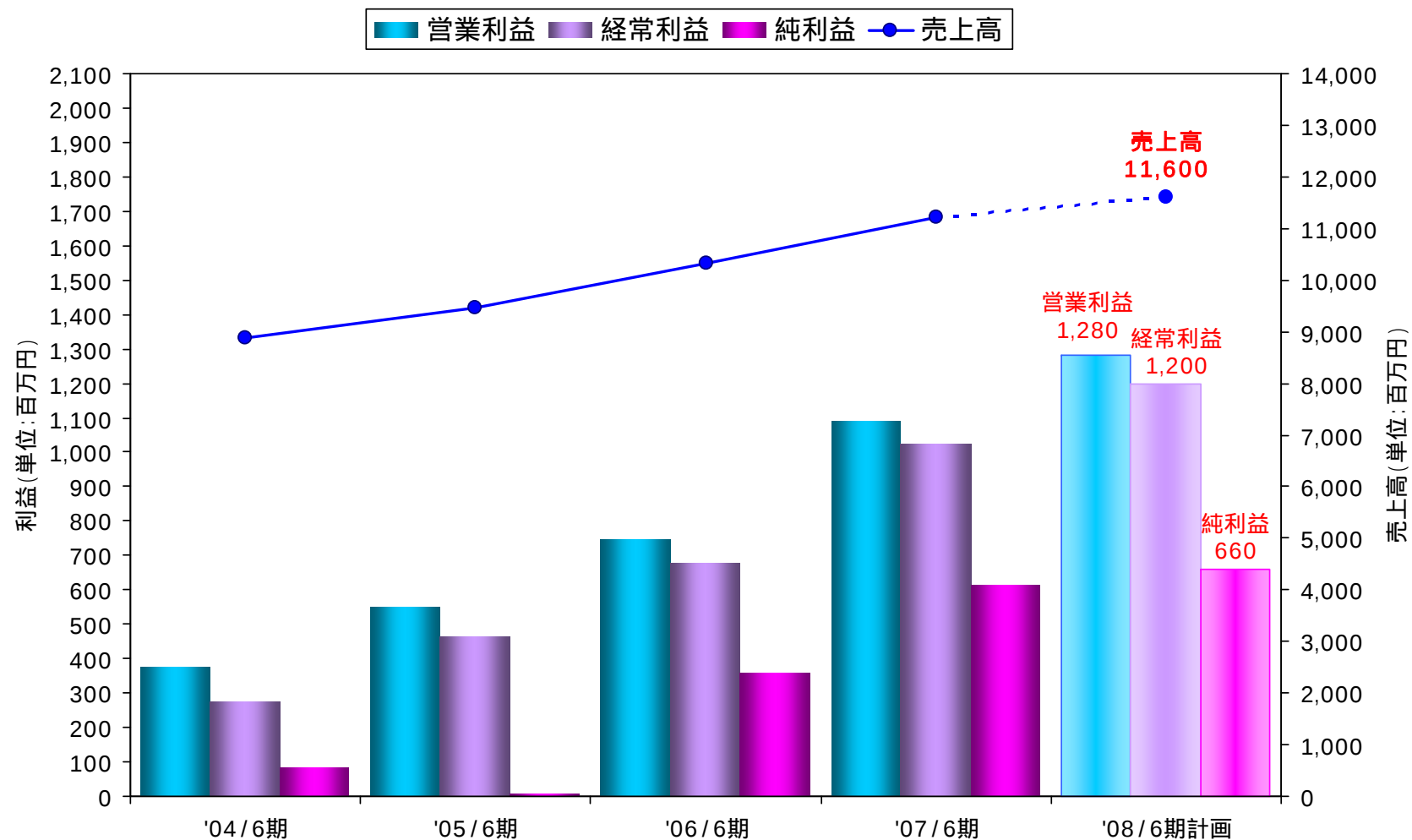
08/6期_中間期の数値は、2008年1月21日現在の速報値であり、実際の決算数値と差異が生じる可能性がありますので、あらかじめお含み置きください。

通期売上高に対する中間期の受注状況



08/6期 中間期の数値は、2008年1月21日現在の速報値であり、実際の決算数値と差異が生じる可能性がありますので、あらかじめお含み置きください。

通期業績推移及び2008年6月期通期業績計画



今後もプロジェクト管理体制の維持・改善を図り、前期を上回る採算の確保に努めることで、期初予想の範囲内に留まるものと判断しております。